

谷津田保全活動への抱負

新しい年、2015年をいかがお迎えですか？ 本年も谷津田の活動へのご支援をよろしくお願ひします。下大和田や小山の谷津田で活動している皆さんに、今年の抱負を語っていただきました。

★下大和田

- ・マイ田んぼをやることになったのでYPPと両立させてやりきるこゝ（網代春男）。
- ・歳・身体・時間に相談しながら田んぼと森の整備に微力を尽くしたいと思います。又、東屋に道具小屋の併設とオダ小屋（大塚田）の新設をと思っています（石橋紘吉）。
- ・市川に引っ越しても、去年以上に下大和田に通うこと（小田信治）
- ・今年は、下大和田出身の日本画家 石井林響について調べたり、美術館巡りをしたいと思っています（小西由希子）。
- ・健康で皆さんと一緒に谷津田の自然を楽しみたいと思っています（渋谷雄二）。
- ・作業に追われてしまいがちな中、生きものにじっくり触れる時間を少しでもたくさん取れるようにしたいです（高山邦明）。
- ・来年の下大和田谷津田ごよみ作成に向けて、素敵な写真をたくさん撮影するぞ（田中正彦）。
- ・今年は田んぼの面積も倍に増やしての挑戦になります。雨二モマケズ、風二モマケズ、夏の暑さ二モマケズ美味しいお米を昨年以上の収穫量目指して頑張ります（田村光範）。
- ・一人でも多く谷津田の良さを知ってもらいたい、また、自分自身も自然観察と谷津田の活動を楽しんでいきたいと思ひます（平沼勝男）。
- ・今年は森（樹木）への関わりをより深めたいと思ひます（水内伸一）。
- ・楽しく谷津田で子供たちと遊び、谷津田を好きになってもらおうと思ひます（南川忠男）。
- ・今年で米作りに参加し始めて10年になります。「細くとも長く」と、続けてまいりましたが今年は少し「太く」と欲をだしていききたいと思ひます。草取りも今年こそ頑張ります。どうぞよろしくお願ひします（吉田紀恵）。



自然物を使ったひつじのクラフト（渋谷雄二さんの作品）

★小山

- ・稲富ファミリーの抱負
 - *直彦（父）：おたまのしっぽ、継代稲作1St.の展開。
 - *理枝（母）：またまた今年も、田んぼに来てくれる子ども達の、きらきら輝く笑顔に沢山会える様に頑張ります。
 - *晴彦（小学生）：密かに谷津田の情報発信！
 - *真理（小学生）：おしごとがんばります(^O^)/♪
- ・できる時に、やりたい事を（今川友子）。
- ・地元の方々、田んぼにお手伝いに来てくださる方々に感謝の気持ちを忘れず、今年もみなさんと仲良く楽しく作業したいです。学校田んぼに来る子供たちがけがすることなくお米作りが出来、田んぼの活動を通していろいろなことを感じたり考えたりしてもらえたらうれしいです（江澤芳恵）。
- ・穏やかな自然の営みに寄り添う生き方を続けていきたいです（金谷英寿）。
- ・田んぼで過ごす時間を少しでも増やして、もっと余裕を持って作業や生きものたちとのふれあいを楽しめるようにしたいと思ひます（高山邦明）。
- ・2014年も子ども達を始めたくさんの方々のおかげで、学校田んぼとYPP田んぼで恵みを得ることができました。ただ、田植え、稲刈り、脱穀などの作業に追われ、田んぼや畦の整備、草取りといった田作りがほとんどできませんでした。特に学校田んぼや観察田んぼのまわりはたくさん子ども達が歩くため、畦がくずれ水があふれたりしていました。今年は、少しでも田んぼや畦、水路の整備をし、稲がすくすくと育つ環境作りを心がけていきたいと思ひます。そして、そんな作業の中で、出会う生きものについてもしっかりと勉強し、子ども達にその魅力を伝えていけたらと考えています（松下恵美子）。
- ・5本植え以上で実験してみる（柳町健治）。
- ・子供たちと一緒に、自然の中でたくさん生きものたちとの出会いを楽しみたいと思ひます。自然に生かされていることをかみしめながら、感謝の気持ちで野良仕事をしたいです（米澤美紀）。



小山の谷津（ラジコンによる空撮、2014/12/31）

谷津田の農具図鑑⑤ モミすり機

脱穀を終えたモミにはまだモミがら（粃殻）が付いています。このモミがらを取り除いて玄米にするのに、モミを物にこすりつけることから取り除く作業はモミすり（粃摺り）と呼ばれています。その昔、弥生時代は臼（“つき臼”）にモミを入れてもちつきのように杵でついていました。平安時代になると摺臼（するす）が使われるようになりました。摺臼は上下二つの円筒形の臼を合わせたもので、合わせ面に溝が切られていて、上からモミを入れて上側の臼を回転させると合わせ面の脇から玄米とモミがらが出てくる仕組みです。最初は木で作られた木摺臼（きするす、あるいは木臼-きうす-）が使われおり、上臼を左右交互に半回転させて粃摺りをしていました。その後、江戸時代になると中国から土摺臼（どするす、土臼-つちうす-ないし唐臼-からうす-とも呼ば



木摺臼（右）と土摺臼（左）（千葉県立房総のむら）



万石おし
（佐倉市 和田ふるさと館）

れる）が伝わりました。土摺臼は竹かごに土を入れたもので、上下の臼の接触面に木を規則正しくうめこんで、使うときは上臼を一方向に続けて回します。木摺臼よりも効率が良いことから広く使われるようになりました。摺臼を通した米にはまだモミやモミがらが混じっているため、玄米を選別する必要があり、傾斜した網の上に米を流して選り分ける万石（まんごく）どおしが発明されました。うまく選別するには網の大きさや傾斜角の調整に熟練の技術が必要でした。選別には唐箕（とうみ）も使われました。

現代では回転する2つのゴムロールの間にモミを通す機械式の粃摺りが一般的で、選別の万石もコンピューター制御で自動化されています。下大和田や小山では“インペラ式”の小型電動粃摺り機を使っています。インペラ式は回転する羽根車からモミを高速で発射して壁にぶつけてモミがらを取り除く方法で、摺り合わせると玄米の表面が削れると困る黒米の粃摺りに適しています。

現代では回転する2つのゴムロールの間にモミを通す機械式の粃摺りが一般的で、選別の万石もコンピューター制御で自動化されています。下大和田や小山では“インペラ式”の小型電動粃摺り機を使っています。インペラ式は回転する羽根車からモミを高速で発射して壁にぶつけてモミがらを取り除く方法で、摺り合わせると玄米の表面が削れると困る黒米の粃摺りに適しています。

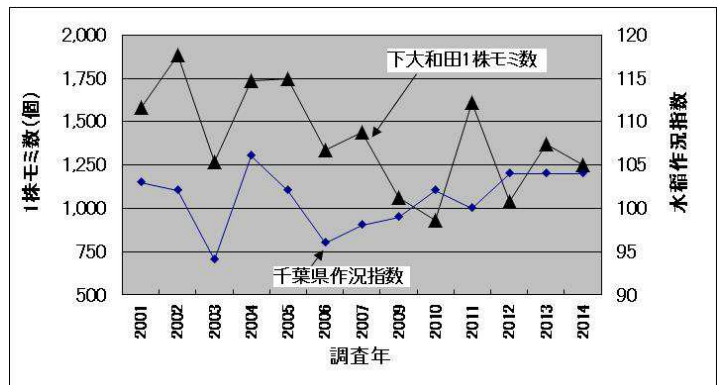
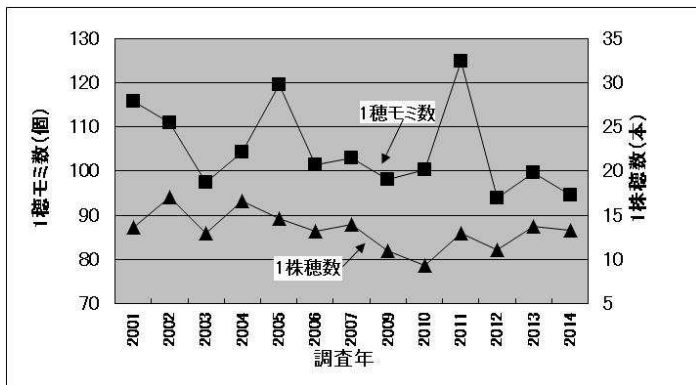
（高山 邦明）



インペラ式電動モミすり機

2014年の下大和田のコシヒカリ生育状況

2014年の千葉県は水稻の作況指数は104とここ3年続けての「やや良」でした（農水省12月発表）。8月に行ったYPP下大和田でのコシヒカリのモミ数カウント調査でも、穂に付いているモミ数や1株あたりの穂数が2013年とだいたい同じレベルでした。一方、収穫が遅い赤米や緑米は開花して穂が付いたものの実らず、モミの中が空の穂が目立ちました。昨年の9月は残暑がほとんどなく、実りの季節の気温が足りなかったのが原因と思われます。（高山邦明）





里山たんけんレポート

第179回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2014年12月7日(日) 晴れ

この季節は鳥見が主になります。アオジ、カシラダカが広く谷津にやってきていて姿が見られました。ツグミの仲間の声も聞かれましたがアカハラかシロハラか飛び立たず判りませんでした。ごく近くからキジの雌が飛び出したり、モズが枝先で止まっていたカメラの被写体になってくれました。ウツギの枝にコハネイナゴが刺さっていました。モズのはやにえです。鳥につかれたのかオオカマキリの卵のうに穴があき壊れたものも見られました。冷え込んだ日が続きました。畔には霜が降り、日陰の田んぼには氷が張っていましたが、日中は風もなく穏やかに晴れて快適な散策ができました。枯草が繁茂していて谷津の最下流部までは巡れず下の鉄塔から引き返しました。観察会開始直前にはリスが出現、又観察会終了直後には田んぼのかかしの帽子にカワセミがとまり、セグロセキレイがペアでやって来ました。アオサギも飛びました。森の落ち葉の下ではシュレーゲルアオガエルが冬眠していました。鳥は12種、観察会後に出現したものを含めると15種でした。

今回は残念なことに不法投棄があり、拾えるゴミは拾いましたが、冷蔵庫が2つが捨てられており、改めて回収することにしました。

(参加者 大人6名、こども1名; 報告: 網代春男)

第170回下大和田 YPP「収穫祭」(第13回米づくり講座)

2014年12月13日(土) 晴れ

2014年最後の田んぼのイベントは収穫祭です。朝は冷え込んだのですが、広場は日差しがいっぱいでホカホカ。いつものように収穫した緑米を大きなせいろで蒸かして、臼と杵でもちつきをしました。ヨイショ、ヨイショのかけ声に合わせてペタン、ペタン、大人も子どももみんな代わる代わるつきました。湯気が立ち上るつきたてホカホカのお餅の味は格別。きなこ、大根おろし、あんこ、納豆、醤油&のりとお好みの味で楽しみました。いつものように他にもイカ焼きや焼き魚、焼き鳥、汁物、焼きイモあって、お腹いっぱい。

午後、子どもたちは谷津を散策しながらのウルトラクイズに挑戦しました。たくさん正解したお友達は素敵な竹とんぼを賞品にもらってニコニコ。一年のよい締めくくりになりました。

(参加者 大人40名、小中高生24名、幼児8名、報告 高山邦明、写真 田中正彦)



総勢72名が集まって谷津は大賑わいでした

第115回小山町 YPP「脱穀」

2014年12月14日(日) 晴れ

遅れていた田んぼの作業、オダに最後に残っていた緑米の脱穀をしました。足踏み脱穀機を2台並べてガーコン、ガーコン、リズムカルな音と共に積み上げた稲束がどんどんなくなっていく。脱穀を終えた稲を見るとモミが付いたままの穂が残っているのがたくさん見られました。でも、モミの中身は空っぽ。穂は付いたけども実らなかったモミが今年はとても多かったようです。実際、赤米や緑米は実らず穂が立ったままの稲がたくさんあり、稲刈りの時に収穫せずに刈り倒した稲株が今年はとても多かったです。

脱穀はこの日に終了し、田んぼから稲がなくなりました。最後の作業のモミすりは年の瀬が迫った27日にまとめて行い、何とか年内に米づくりのすべての作業を終わらせることができひと安心です。



(参加者 大人3名、中学生1名、報告 高山邦明)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 12月 7日 谷津田の日だまりにアキアカネが飛んでいた(高山)。
12月 14日 アシ原からアリスイらしい声が聞こえた(高山)。

下大和田

- 12月 7日 観察会の日 開始前リスが出現。今年2回目(網代)。
12月 12日 ノスリがハシブトガラス2羽に追われていた。カヤネズミの巣が広場の刈った草にひとつ付いていた。(網代)。
12月 13日 アシ原からベニマシコの声がした(高山)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼下大和田 YPP 第 171 回「どんと焼きと昔あそび」

年明け最初はどんと焼きからスタート。暖かな火を囲みながらけん玉やベイゴマなど昔ながらの遊びを楽しみます。

日時: 2015年 1月17日(土) 9時45分~14時

場所: 脱穀 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:25、8:40など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物、昔あそびの道具、どんと焼きで燃やしたいものなど。

参加費: ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第 181 回 下大和田 2 月の谷津田観察会とごみ拾い

ニホンアカガエルの産卵が始まる頃です。卵塊と冬鳥を観察しながら谷津を巡ります。

日時: 2015年2月1日(日) 9時45分~12時 ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(下大和田 YPP に同じ)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時: 2015年1月11日(日)、1月16日(金) いずれも9時45分~15時

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上) 持ち物: 飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催: ちば環境情報センター

▼第 116 回 小山町 YPP「田んぼの手入れ」

アカガエルの産卵に備えてあぜを整備して田んぼに水が貯まるようにします。また、今年の米づくりに使うオダ用の竹の切り出しをします。

日時: 2015年1月25日(日) 10:00~12:30、小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴(田んぼが深いので長めがいい)、帽子、軍手、敷物。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 新年あけましておめでとうございます。今年で下大和田 YPP の米づくりは 15 年目、小山は 10 年目を迎えます。ついこの前はじめてのような気がしていますが、こんなにも月日が経過していることは驚きです。私たちが米づくりをしなければ谷津田はアシ原に変わり、ヤナギなどの木も生えるようになって田んぼとは環境が大きく変わっていたことでしょう。ニホンアカガエルやメダカなど、今までのように米づくりを続けることで維持されていく田んぼの命がたくさんあります。活動を末永く続けて、20 年目、30 年目を生きものたちと一緒に笑顔で迎えられようになりたいものです。(高山 邦明)